

ふれあいボランティア活動 感想文集

令和元年度



認定NPO法人

さわやか青少年センター



ふれあいボランティアパスポート事業 令和元年度ふれあいボランティア活動感想文集

い学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を達成していきます。」と、しています。

さわやか青少年センター（以下SSCという）は、青少年一人ひとりの「生きる力」の根幹となる『人間力』（自ら意欲的に生きていこうとする「自助の力」とみんなで助け合つて生きていこうとする「互助の力』）を、青少年が自ら育むよう支援する団体です。

地域社会の中で行うふれあいボランティア活動（当センターが提唱する「ふれあいボランティア体験学習」の中で人とふれあって行う「ボランティア体験活動」のこと。以下、「体験活動」という）は、青少年が『人間力』を育むに最適な取組みの一つであると考えています。SSCでは、その「体験活動」を支援するツールとして「ふれあいボランティアパスポート」（以下、FVPという）を学校や団体に提供しています。

今年度は、これまで8回実施した「ふれあいボランティア活動感想文」の募集の中で、最も多くの児童・生徒のみなさんよりご応募いただきました。ありがとうございました。

さて、これから学校教育について、文部科学省では「社会に開かれた教育課程」の実現を目指して小学校は2020年度から、そして中学校・高校は1年ずつずらして新学習指導要領を実施していきます。そして、その達成する目標を、「保護者の皆さまや地域の皆さまのお力添えをいただきながら、よりよ

「ふれあいボランティア体験学習」は、自己肯定感や豊かな人間力を育みながら、正に、よりよい社会創りのために、地域や社会を知り、学び、思考し、改善に取り組むという学習活動であります。その実施においては、社会に開かれた教育課程の中で、積極的に保護者や地域の方々の協力を得て、「体験活動」に取り組んでいただくことが必要です。

FVPは、児童・生徒に「体験活動」のきっかけ（動機付け）を提供するツールであり、無償で提供しています。ふれあいボランティアパスポート参加校、参加団体の教員、指導者の皆様には、保護者や地域の協力者の方々にもご紹介をいただきまして、FVPを活用した「体験活動」の輪を広げていただければ幸いです。

それでは、今年度の感想文、および選考委員の講評をお読みいただきたいと思います。

令和二年三月一日

認定NPO法人さわやか青少年センター

理事長 有馬正史

ふれあいボランティア・スポーツポート参加校リスト（巻末参照）

◎ホームページにも参加校、感想文集を紹介しています。ダウ

ンロードできます。（URL：<http://www.ssc-tipo.or.jp>）

「ふれあいボランティア感想文」

応募総数719点（小学校13校・1団体357点、中学校5校・

1団体210点、高校4校152点）

○受賞者

【ふれあいボランティア活動大賞】（1人）

東京都立穂ヶ丘高等学校2年

高橋
たかはし

【小学生賞】（7人）

千葉県栄町立布鎌小学校1年

芝原
しばはら

千葉県栄町立安食小学校2年

山田
やまだ

鹿児島県南九州市立中福良小学校2年

櫛山
くじやま

鹿児島県南九州市立中福良小学校3年

若林
わかばやし

東京都板橋区立第六小学校4年

美優さん
みゆうさん

千葉県栄町立安食小学校5年

伊藤
いとう

安藤
あんどう

志保李さん
しほり

【中学生賞】（3人）

東京都小平市立小平第五中学校1年

星野
ほしの

和奏さん
わかな

東京都小平市立小平第五中学校1年

三ツ橋
みつはし

和音さん
かずね

福井県福井市社北公民館
(福井県福井市立社中学校)1年

向井
むかい

さくらさん

岩手県盛岡市立厨川中学校2年

新谷
あらや

三汰さん
さんた

【高校生賞】（3人）

東京都立練馬高等学校2年

丸子
まるこ

さくらさん

東京都立穂ヶ丘高等学校3年

櫻井
さくらい

圭悟さん
けいご

東京都立渋江高等学校3年

由菜さん
ゆな

希来々さん
きらら

◆ふれあいボランティア感想文選考委員

選考委員長

公益社団法人全国公民会連合会理事、

アナウンサー、エッセイスト 村松 真貴子氏

選考委員

NPO法人子育て広場全国連絡協議会

理事長 奥山 千鶴子氏

NPO法人放課後NPOアフタースクール

代表理事 平岩 国泰氏

日本教育新聞社

編集局局長 矢吹 正徳氏

講評

◆ふれあいボランティア活動感想文選考委員長

「今を一緒に生きる」こと

公益社団法人全国公民会連合会理事、

アナウンサー、エッセイスト 村松 真貴子

「ふれあいボランティア活動」の感想文を、今回初めて読ませていただきました。どれも素晴らしいで、各賞及び大賞を最終決定するのが大変でした。

自分たちが住んでいる町や川をきれいにしようと清掃活動に参加した小学生、用水路に捨てられた空き缶は重くて運ぶのが大変だったという感想は大変リアルに伝わってきました。はじめは恥ずかしくていやだなと思つても、お年寄りの「ありがとう」という言葉と笑顔を見てい

うれしくなり、これからも頑張ろうと思つた小学生。ボランティアは見返りを求めず、自分から進んで人の役に立つことであり、そのためには勇気も必要なのだと気づいたというメッセージも心に残りました。

中学生では、祖母に連れられ参加したごみ拾いで参加者は5人だけ。しかもお年寄りばかりだった、もっと若い人が参加することが大事だと気づいたという人。またボランティアの報酬は、達成感や充実感、人を笑顔にすることだとわかつたという指摘に感心しました。

高校生の作文では、パラスボーツのボランティア活動をしている人がいました。東京パラリンピック開催に向けて、大きな力を發揮してくれることでしょう。また、ボランティア活動をしたことで、将来の目標を見つけることができたという作文も印象に残りました。目標に向かって頑張つてくださいね！祖父母の住んでいるところの焼き出しに参加した時に、豚汁が3種類あり驚いたという作文もありました。普通の豚汁、具材が細かい豚汁、減塩みそ使用の豚汁など、高齢者が食べやすいように考慮しているというのです。自分は行動的ではないが、参加して「うれしい」と思ったことがボランティアをする上で大事なことだと思ったと書かれていました。

顔と顔を合わせたコミュニケーションが希薄になつて現代だからこそ、人と人がつながっていくことの

喜び、笑顔の力、「ありがとう」というひと言で人は頑張れるということが、皆さんのお作文から伝わってきました。人と人との温かいかかわりを持つて、「今と一緒に生きることの素晴らしさを改めて心に刻みました。

◆選考委員

子どもがボランティアに出会うとき

NPO法人子育て広場全国連絡協議会理事長

奥山 千鶴子

今回、応募いただいた作品を読みながら、「子どもがボランティアに出会う時」の意味について考えさせられました。

小学生の子どもの中には、普段の暮らしの中での家族がモデルとなっている様子が垣間見られたことは新しい発見でした。自然豊かな場所での瓶やペットボトルの投げ捨てが気になる親からの誘いでお手伝いをしようと決心した兄弟や、台風のかたづけを家族みんなでしたことで、普段から普通に家のまわりの手入れをしている祖父への尊敬の念がわきあがつたという感想を読んで、大人の姿が子どもに与える影響について、改めて教えられた気持ちです。

日本では、このようなことをボランティアとして認識

せずに、「家のしご」と「地域のしご」として自然にやつてきたことなんだと思います。このことから、「子どもがボランティアに出会った時」に素直にやつてみようと思えるためには、大人们が普段から家の中で地域の中で、どう行動しているのかという点が非常に重要であるという点について、認識をより深くいたしました。

しかしながら現在ではボランティアの機会は与えられるものとなっています。与えられた時にどう感じ、どう自身の中でとらえていくのか、そんな内面の変化や自身への気づきが、作品の中で語られていました。

「新しい自分の発見！」それは、自分もびっくりですね。ボランティアは、知らなかつた自分、周囲に生かされる自分を発見できる魔法のような活動ですね。今回も、多くの子どもたちの作品から学ばせていただきました。

今年こそ、ボランティアを！

NPO法人放課後NPOアフタースクール

代表理事 平岩 国泰

ふれあいボランティアの感想文を今年も読ませていただきました。たくさんの応募があつた中で選ばれた文章だけあって、どれも素晴らしい活動だと感じました。皆さんのが自分で一步を踏み出したこと、それによって喜ん

でくださつた方がいたこと、そして人のためにと動いたボランティアが結果として自分のためになつたこと、そんなことを皆さんが学んでいる姿に胸が熱くなりました。いつの時代もボランティアの意義は変わらず大切なのですが、今年はとりわけ重要な年だと思います。なぜなら2020年は日本にオリンピックが来るからです。世界中から多くの人が日本にやつてきます。

オリンピックではおそらく今までの日本の歴史の中でも有数の数のボランティアの方が動くと思います。それを機に、東京だけでなく今こそ日本中がボランティアをすべきだと思います。皆さんは勇気をもつて動き出しました。ぜひ次は周りの人を誘つてください。皆さんの貴重な経験を伝えていってください。

2020年が日本のボランティア発展の元年になれば、素晴らしいオリンピックのレガシーだと思います。皆さん、一緒に頑張りましょう！

綴り続けてほしいボランティア活動への思い

日本教育新聞社編集局局長 矢吹 正徳

今回も素晴らしい作品に出合えました。

小・中・高校生がボランティア活動に向き合うとき、発達段階に応じた表現や、活動内容の違いはありますが、突き詰めてみると、年代にかかわらず、心の変容のプロ

セスはとても似ていることに気付きます。

活動対象の相手の方からの「ありがとうございます」を力にかえ、自分自身の内側にあふれる感謝の念を感じ取り、児童・生徒はボランティア活動の良さを再認識していくようです。それぞれの活動のきっかけは、保護者からの後押しであったり、学校の活動としてであったり、あるいは、最初の関わり方も積極的であつたり、嫌々ながらであつたりしても、たどり着く感慨が同じなのは、ボランティア活動の魅力でもあるのでしょう。

4月から小学校の新学習指導要領が全面実施されます。特別活動などでは「キヤリア・パスポート」が導入され、活動を記録し、しかもそれが中・高校へとつながります。

キヤリア・パスポート同様、ふれあいボランティア・パスポートも継続して活用していけば、一人ひとりの成長の記録になります。ふれあいボランティア活動感想文も成長の節目ごとに綴り続けてもらえば、世界に通用するもう一つの『身分証明書』になるのではないでしようか。

(希望受賞者の顔写真を掲載しています。)

【ふれあいボランティア活動大賞】

住宅の「仲間」の真心

東京都立穂ヶ丘高等学校

2年 高橋 碧海

私の祖父母は、とある都営住宅に住んでいます。その住宅では有志の方が集まって、ラジオ体操や夜警などの見回り、炊き出しや住宅内環境美化、大掃除など、さまざまな活動を行っています。私は祖母に勧められ、何度か参加したことがあります。

特に印象に残っているのが炊き出しで、私は配膳を担当していました。豚汁と焼き込みご飯をよそつて配る。

そのような、いたつて単純な作業だと思っていましたが、焼き込みご飯は「ふつうのかたさのご飯」の他に、住宅にいらっしゃる方々は高齢の方が多く、かたいご飯を食べられない可能性があるため「やわらかいご飯」がありました。そして豚汁にも「ふつうの豚汁」、「具材が細かい豚汁」、「減塩みそ使用の豚汁」の三種類があり、たくさんの人々の注文に合わせて配膳しなければいけないた

め、慌てて間違えてしまうなど複雑でとても大変な作業でした。

終了後、炊き出しの企画担当者が、ご飯と豚汁の種類を増やした理由を話してくださいました。「私たちみたいな年配の人から、あなたみたいな若い子まで、みんな歯の数も舌の感覚も違うけど、すべての人が違和感を持たないで『同じ釜の飯』を食べることができたら、それはそれはとっても素敵なことじやないかしら」と。

そこで私は、ボランティアをする際に持つておきたい考え方、心構えなどを教わることができた気がします。

この活動を通して、ボランティアは視野を広げ、相手の気持ちや感覚を理解しようとする心を持ち、自ら進んで楽しんでいくことが非常に大切なのだなと思いました。実際に炊き出しの作業をしたとき、食べに来ている住宅の方々を見ると、安心してうれしい気持ちでいっぱいになりました。そして豚汁にも「ふつうの豚汁」、「具材が細かい豚汁」、「減塩みそ使用の豚汁」の三種類があり、たくさんの人々の注文に合わせて配膳しなければいけないた



【小学生賞】

きれいにするよ、ぼくのふるさと

千葉県栄町立布鎌小学校

1年 芝原 徳爾



そういうわけで、ぼくはかんがえました。

(あそこはバッタやイナゴをつかまえるばしょ。おとうさんとなまずをつる川もある。やつたほうがいいのかな……。)

ぼくのおかあさんは、まい日さんぽをしています。なんぼのなかのみちをあるきながら、けしきを見るのがすきだといっています。

でも、ときどきつらそうにはなすことがあります。みちのわきのよう水ろに、たくさん空きかんやペットボトルなどのごみがういているときです。また、『ポイ捨ては、やめよう』のかんばんがあつても、そのまわりにまでたくさんのごみがすべてあるときです。

ある日、おかあさんがいいました。



「このままだとどんどんごみがふえていくて、川がごみばかりになつてきたら、さんぽなんてたのしめなくななるわ。ねえ、いつしょにごみひろいしようよ。」

そこで、おにいちやんとぼくは、こわれたむしとりあみをもつて手つだうことにしました。コーヒーとビールのかんがいっぱいでした。それはどれもどろや水が入っていて、あみですくうと、とてもおもくてたいへんでした。川のまんなかにあるペットボトルは、とどきません。おにいちやんのかたほうのうでをおかあさんがひっぱつて、もうかたほうでもつたあみをうんとのばして、やつとりました。ぼくは、ひろつたごみをふくろに入れるかかりもすすんでやりました。そのうち、どうだらけのごみで、ふくろはどんどんおもくなつて、もてなくなりました。

たいりょうのきたないごみを見て、おもいました。(いつもとおつていてるみちのまわりに、こんなにたくさんごみがあるのは、いやだな。さつき小さなさかなが出てきたのは、よろこんでくれているからだね。)ぼく、またおかあさんにさそわれたらやります。

中国の人とむかしあそび

千葉県栄町立安食小学校

2年 山田 衣織



わたしは、こくさいこうりゅうで、中国の小学生にむかしあそびを教えてあげました。わたしは、けん玉を教えてあげました。まず、わたしとまおさんがあん内がかりだったので、体いくかんから、けん玉を行う音楽室へつれて行つてあげました。

音楽室について、わたしたちはまず、けん玉についてしようかいし、やり方をせつ明しました。せつ明がえい語とカタカナで紙に書いてあつたので、それをみんなで読みながら、じっさいにやつて見せました。そうしたら、中国の小学生もまねをして、おさらにのせようとがんばつていました。

「すごいなあ！」

と思いました。

わたしたちも上手にのせられるように、教え方をくふうしました。はじめてやつたのに、おさらにのせることができた人がいたので、とてもびっくりしました。けん玉は、二グループに教えることができました。

けん玉を教えた後は、きゅう食をいつしょに食べました。きゅう食は、三年生もいつしょだつたので、三年一组につれていかなければならなかつたのですが、まよつたり、どこかに行つてしまつたりしてたいへんでした。自分の教室にもどつてきゅう食をいつしょに食べて、牛にゅうパックを開くのをてつだつてあげました。そして、昼休み、そうじの時間をいつしょにすゞしました。さいごに、終わりの会で歌とおり紙のプレゼントをし、お見おくりしました。

わたしは、こくさいこうりゅうをして、言葉がつうじなくとも、心がつうじれば、いつしょに楽しい時間をすごすことができるときました。

ボランティア活動は、ぼきんやおてつだいだけでなく、ほかの国の人におもてなしをすることもその一つなんだと思いました。



花うえ

鹿児島県南九州市立中福良小学校

2年 櫛山 漸



「べんてをもつて。」

と、おかあさんがいそいだようにいいました。ぼくたちの公みんなのちゅうしやじょうに大きな花だんがあります。今日は、あおぞらこども会のふれあい花うえです。行つたら、たくさん草が生えていました。

「たいへんそうだ。」

とぼくが言つたら、おにいちやんが

「だいじょうぶだよ。みんなですれば。」

と、はげましてくれました。小学生が四人。中学生が三人。大人が十三人でみんなで、草とりからはじめました。きれいになつてから、マリーゴールドの花をたくさんうえました。

夏になつて、夏休みの学どうの帰りに草がたくさん生えているのに気づきました。

「あれつ。草が生えてるよ。」

お兄ちゃんが言いました。

「みんなでとりにいこうか。」

お母さんの一言で、みんなでこうみんなにむかいました。そして、家族五人で、草をとりました。とてもきもちがよかったです。けいろ

うの日、ちいきのおじいちゃんと
おばあちゃんがこうみんなにあ
つりました。

「花がきれいだね。」
「ありがとうございます。元気が出るよ。」
と、言つてくれました。ぼくは、
とてもうれしくなりました。

これからも、みんながよろこんでくれるようにきれ
いな花がさくようにしたいです。

ボランティアつて

鹿児島県南九州市立中福良小学校

3年 若林 美優



今日は、年に一回の地いきボランティアの日。いつもは学校での「ちょボラ」活動だけど、今日は地いきでの活動だ。

自分たちでどんなボランティアをするかを話し合い、近くの「白石神社」をきれいにしようということにな



つた。学校から歩いて十五分ほどの所にあるこの神社では、毎年、六月どうでお世話になつていてるからだ。

「よし、神社だし、きれにするぞ」と思つてたわたしの目に入つてきたのは、落ち葉のたくさん落ちてるけいだい。十月も始まつたばかりなのに、地面が見えないほど葉っぱが落ちていた。「こんなにあるの。つかれそうだな。」とさいしょの気持ちはどこかに消え、やりたくない気持ちでいっぱいになつた。そんな気持ちのまま落ち葉を集めていると、

「みうさん手伝つて。」

と先生に声をかけられた。小さなため息をついて、少し小さな声で返事をして、先生の所に行つてみると、そこには、たくさんの落ち葉と、それを集めている一年生がいた。

わたしは、一年生が集めやすいように落ち葉をはいて山にした。でも、その落ち葉の山はすぐになくなる。

一年生がどんどん一りん車にのせていくからだ。わたしは、一年生に負けないようにどんどん山を作つていった。ふしぎなことに、さつきまであんなにいやだつたのに、体がすいすい動いてきて、なんだかんだん楽しくなってきた。先生に、

「みうさん、やる気スイッチ入つたね。」

と言われ、うれしくなつた。そして、もっとやる気がわいてきた。「あれっ、ボランティアってこんなに乐しかつたつけ」落ち葉の山を作り続けながら、ふと思つた。そして、あつという間に終わりの時間。地面の見えるきれいなけいだいを見ながら、「ボランティアって人のためになるだけじゃなくて、自分の心もうれしくなるものなんだな」と思つた。

だれかのために、自分のために

東京都板橋区立板橋第六小学校

4年 安藤 心音

ヘルプマークについて知つているだろうか。外見から分からなくとも援助や配慮を必要としている方が、周囲にそれを知らせるために作成されたマークのことだ。



ルプマークを知らなかつたり、あるいは見て見ぬふりをしていたのかかもしれない。

ボランティア活動とは、「自分から進んで、見返りを望まないで、人や社会の役に立つ」ことだ。ボランティアをするところで、みんなが元気になつたり、笑顔になつたりすると思う。去年の夏休みに、私は学校のヘチマに水をあげに行つたり、保育園にお手伝いをしに行つたりした。ヘチマは最初、葉がしおれていた。それでも水をやつているとどんどん元気になっていき、秋ごろに大きな実を作つてくれた。保育園にお手伝いをしに行つた時は、

小さい子と一緒に遊んだり、絵の具をかたづけたりした。心を開いてくれなかつた子も、帰る時「またね！」と言つてくれて心がほつこりした。どれも、ありがとう、と笑顔になつてくれて私もいいことをしたな、と笑顔になつたり元気をもらえたりした出来事だった。

私は、ボランティア活動はあまりやつたことがなかつた。けれど考えてみると、ヘルプマークの時と同じで、人の役に立つために、一歩踏み出すにはどうするかということの大切さは、一緒のような気がする。だから、助けてあげたい気持ちと、勇気を出して一歩進む気持ちを大切にしていきたい。

家を守るお手伝い

千葉県栄町立安食小学校

5年 伊藤 志保李

台風が来たあと、大風や大雨で、おじいちゃんの家の山や庭はとても大変なことになつています。大きな木が根っこからおれたりして道路をふさいでしまいます。きれいにさいていた花も、地面におしつけられてぐつたりしているのを見ると、悲しい気持ちになります。

そんな気持ちに気合いを入れて私はいつもかたづけの手伝いをしています。

今年の台風はとても大きかつたので、私のお父さんは仕事で帰つてこれなかつたので、お母さんとお姉ちゃんと3人で、道路上にたおれた木をかたづけることになりました。

お母さんが機械で木を細かく切つてくれたのをあいている土地に運びます。かんたんそうに見えてとても重くて大変なお手伝いです。

冬になると、お父さんといつしょに家のまわりの木を切つた



pista.jp - 22566424



り、整えたりしています。その手伝いも大変です。

切った木は水分がたくさん

含まれているのでずつしりと重いし、集めた木をかわかしてから燃やすので、かたづけが終るにはたくさんの時間が必要です。とてもゆっくりした時間

を使う作業をおじいちゃんたちは、ずっとがんばってきました。だとお父さんとお母さんは「何かコツがあるのかなあ。」と言いながら、そんけいしているそうです。

おじいちゃんは、今まで一人で山や家のまわりの手入れをがんばっていて、それは私たち家族の力よりもすごいことが、お手伝いすることで発見できました。家を守るお手伝いは、とても大変だけど、終ったあとにおじいちゃんからもらうごほうびサイダーは、シユワーっと体にしみわたって最高においしいです。

いつかおじいちゃんみたいに家を守れる人になりたいので、いっぱいお手伝いをがんばります。



子ども民生委員

福岡県大牟田市立中友小学校

5年 酒井 愛桜

五年生になると中友小学校ではオレンジのベストと黄色のぼうしを着けて民生委員活動をします。私はお姉ちゃんが子ども民生委員として活動するすがたを見た時から五年生になるのを楽しみにしていました。

五月に委しょく状をもらつたしゅん間、

「一年間がんばるぞ。」

と私は身がひきしまる思いでした。それからたくさん活動が次から次にありました。民生委員としての最初の活動だつた地いきの方への名し配りには残念ながら目の手術で参加できず、名前を伝えられなかつたので少し不安になりました。夏の絵本教室では、にん知しようと聞いてくわしく知ることが出来ましたが、少しこわくなりました。私のおじいちゃんも実はにん知しようと診だされました。私のおじいちゃんも実はにん知しようと診だされ、同じことを何度も言つたり、私がだれなのかわからなかつたりします。この絵本教室を通しておじいちゃんのことを受け入れてもつと私ができることを考えてみようと思いました。



私が、一番心に残った活動はけい老会です。クラスのみんなと何ども練習したけれど、やっぱり不安で、何を話そうかドキドキが止まりませんでした。でも、みなさんすごくやさしくて、逆に気をつかつてもらつていたような気がします。話もとてもおもしろく、年を重ねるとこんな会話ができるんだなと私も大人になるのが少し楽しみになりました。

私が、この子ども民生委員活動を通して気づいたことは、沢山の活動すべてに学校の行事でよく見かける民生委員の方や見守り隊の方々がたくさん協力してくださっているということです。子ども民生委員が始まつたころからきつと何年も支えて来てくださつたのだと思います。私たちの子ども民生委員活動も残すところあと三学期だけになりました。協力していただいている方々に感謝して最後までしつかりつとめたいです。



【中学生賞】 私が体験して学んだこと

小平市立小平第五中学校

1年 星野 和奏



私は祖母の家に行つた時、祖母の家の周辺で開催されているごみ拾いに参加しました。このごみ拾いに参加した人は私を含めわずか五人でした。ごみ拾いを開始する時間は正午過ぎで比較的作業がしやすく、集まるのも苦ではない時間帯です。けれど集まつたのは五人という少ない人数でした。私も最初は乗り気にはなれなかつたのですが祖母につれられ行つてみました。そしてごみ拾いを始め十分もたたないうちに腰と足が痛くなつてきてしまいました。しかしこんな痛さなんて大したことではないと感じました。なぜならこのごみ拾いを毎週行つている方達がいるのだと思ったからです。その方達は私より年配で体も疲れやすいのに毎週行つてゐる、そう思うとこんな痛さで休憩していいる自分が情けなくなりました。私は、祖母がごみ拾いにつれていつてくれなかつたらいつまでも自分がどれほど情けないのか知る機会もなかつたと思います。ごみ拾いに参加していいた近所の方が今 の若い人達は地域の行事にも参加してくれないのでと言

つっていました。私はこの方の言葉を聞き、私自身の考え方を一から考え直しました。

私は一度でいいので今の若い人達にこのような地域の行事に参加してほしいです。地域の行事に参加すればするほど自分の住んでいる町の様子が分かり、町のために頑張れたという達成感も得られまたやつてみたいという気持ちになります。

私はごみ拾いというボランティアができ、自分の中でとても大きく成長できたと思いました。

ボランティアで感じたこと

東京都小平市立小平第五中学校

1年 三ツ橋 和音



ぼくは、今回実際にボランティアを経験してみて、自分がの中でのボランティアに対する印象が変わりました。ぼくは初め、お金などの報酬を貰わずに仕事をすることがボランティアだと思っていました。だから、ボランティアは、自分に利益がないのに人の役に立ちたいという気持ちの人がやるものだと思っていました。

でも、学校では、自主的にというより強制的にボランティアをさせられているような気がして、これは本当に

ボランティアと言うのだろうかと思つてしまふ事もありました。そんな事を思つていながら、落ち葉をはいていると、自分がはいた所が段々ときれいになつてていることに気が付きました。道が少しづつきれいになつていくのがうれしくなり、最終的には、自主的に落ち葉をはいているようになりました。

そこで、自分から仕事をしてみると、人に言われてやるよりも嫌にならないと感じました。また、落ち葉をはき、道をきれいにしたことで、達成感や充実感を得ることができました。ボランティア活動を終えた今では、ボランティアの自分にとって一番の報酬は、この達成感や充実感、人を笑顔にすることなのではないかと考えるようになりました。

今回、自分が経験したボランティアは落ち葉ひろいでしたが、お年寄りも増えている今、ぼくたち中学生にできることはもつとたくさんあると思います。もつと多くの人がボランティアに興味や関心を持ち、ボランティア活動を盛んにできたら、もつといい町、国になつていくと思います。今回のこの貴重な経験を生かして、次は自分から行動を起こし、ボランティアに参加したいと思います。

ボランティア活動って？

福井県福井市社北公民館（福井市立社中学校）

1年 向井 さくら



私は、地域の町づくりなどに関わる活動をしていました。小学校六年間を通して、たくさんの地域活動をしてきました。始めは、「何のためにやっているのかな」や「誰のためになるのかな」など疑問もたくさんありました。しかし、次の二つの経験を通し私の気持ちは大きく変化しました。

一つ目は、おととしの大雪の中、公民館の田中さんと一緒に誘われて、新しくできた地域の歌を歌いに行つたことです。歌つていてはみんな一体となつていて外は寒かつたけれど、そこだけあたたかい雰囲気になりました。曲名もつけさせてもらい、テレビにも出演させてもらい、感謝の気持ちでいっぱいでした。こんな体験を、五年生で出来ると思わなかつたので、とても良い経験になりました。

二つ目の体験は、地域に公園ができ、そこに立てるかんばん作成をしたことです。大好きな、田中さんにお願いされ、やる気満々でした

た。その時、田中さんは、「大丈夫。さくらちゃんが描いた絵ならみんな喜んでくれるよ!!」と言葉をかけてくれて、私にとって自信になりました。その言葉を思い出して、ながら描くと、とても絵を描くことが楽しく思えてきて、その時にはもう、不安な気持ちはなくなっていました。完成した看板を見ると、ああここまで頑張つて良かつたなと思いました。このことは、地区の広報誌にものり、地区の人達の役に立てて良かつたなと感じました。

この二つの体験を通して、「ボランティアは、人と人をつなげる、そして自分を成長させる大切なものです」と感じました。そして、ボランティアをしている人は、心があたたかいなと思いました。少しでも地域のため、町のためにいろいろなことを考えているその姿は他から見てもすてきだなと感じるし、自分がボランティア活動をしていても、して良かつたなと晴ればれした気持ちになります。「何のため？ 誰のため？」

という疑問も、活動をやつて

いくうちに、地区が明るく楽しい町になるように、そのことだけを思つてみんな取り組



んでいるんだなと思いました。

中学校に入つて、地域との交流が少なくなつた今だけれど、看板の前を通ると、あの日のことがよみがえつてくるし、あの歌も思い出します。この、私達の活動で、ボランティアをする人が一人でも増えることを願つています。中学校は、小学校より、自分で何かをしたり、助け合いという部分で動くことがあります。そんな時は、自分から積極的に動いてみんなを助けていきたいです。

ボランティア活動で学んだこと

岩手県盛岡市立厨川中学校

2年 新谷 三汰

僕は先日の役員選挙で、ボランティア委員長になつた。日本や世界の困つている人を、助けたいと思つたからだ。

普段のボランティア委員会での活動は、学校内で行うことが多い。そんな中、十一月にユニセフの街頭募金を行つた。慣れない場所での活動だったので、僕も含め委員のみんなには、緊張感があつた。でも、地域の方々は立ち止まってたくさんのお金を入れてくれたし、「お疲れ様」や「寒いのに頑張つてるね」など、たくさんあたたかい言葉をかけてくれた。そんな何気ない一言で、自分

の学校生活のことや、委員会活動のことを思い出した。ボランティア委員会で募金活動を行うときは、朝に昇降口で呼びかけをすることになつていて。その時に、毎朝僕よりも早く来て準備を手伝つてくれる委員がいる。また、自分の担当ではないときに来て一緒に呼びかけてくれる委員もいた。それに気付いていながら、僕は相手に伝えることをしてこなかつた。「毎日頑張つてくれてるね、ありがとうございます。」「頼りにしてるよ。」これから意識して言葉にしていこう。そんな小さな一言が相手に伝わり、優しい気持ちややる気が広がっていくのではないだろうか。それは、ボランティア精神も同じだと思う。ならば僕は、一つ一つの活動を心を込めて行いたい。心を込めて気付いたことを言葉にし、伝えていく、それが多くの人に伝わればその活動の輪はどんどん大きくなるのだと思う。ボランティア活動だけのことではない。普段、自分の周りにいる頑張つている人を見たら応援したり、悲しんでいる人がいたら優しい言葉をかける、言葉にしてみる、地域の方々から感じたあたたかさを大切に、委員会活動を頑張つていただきたい。今回の街頭募金を通して自分の委員長としての活動への取り組み方を、更に考えていきた

思いやりの心を地域へ

山形県山形市立第一中学校

3年 丸子 実桜



私は、生徒会長として、一中の思いやりの心を地域に広げたいという思いから、「ヘルプマーク」(P9)に注目しました。

ヘルプマークとは、外見では分からなくても、援助を必要としている方が身につけるものです。最初に、全校生がヘルプマークについて学ぶための研修会を行いました。研修会を通して、心のバリアをなくすためには一人一人の理解と行動が大事だということを学びました。

次に、学んだことをもとに全校生一人一人が詩を書き、代表作品を地域の公共施設に掲示しました。詩を掲示することで、一中の思いやりやヘルプマークの意義を地域の方々に知つていただきつかけになりました。

さらに、自分から行動を起こすという意識を高めるために、ヘルプマークに呼応するオリジナルマークを作りました。全校生からマークのデザインと名称を募集しました。「オンマーク」という、人から人へとランプを渡し、優しさを広げていく様子をデザインしたマークが完成しました。完成したマークをもとにワッペンを作り、ボランティ

ア活動をするときにはそのワッペンをつけて活動するようになりました。そうすることで、困っている方に声をかけようとする気持ちが芽生えました。以前から生徒会で行っていた奉仕活動やエコキヤップ回収などへの参加もより意欲的になったと思います。オンマークの作成を通して、一中の思いやりの心がより深まったと感じています。

ヘルプマークをつけた方を見かけることが増えました。ヘルプマークをきっかけに始めた活動で、思いやりの心をもとに、誰もが生きやすい社会を築いていけることを学びました。声をかけるのは勇気がいりますが、一歩踏み出して行動を起こしていきたいです。

《デザインや色に込めた意味》

- 青 ブ…『貢献』の象徴
- ハ 一 ト…一中の思いやりの心
- 2人 の 人…思いやりの心を一中や地域へ広げていく様子
- 緑 色…『連峰の精神』一人一人が個性を持ち、自己を高め、互いに高め合う

《名称に込めた意味》

- ① ON…『(電源や明かりを)つける』・『関わり』・『動作の継続』を表す
- ② OWN…『自分自身』
- ③ 温…温かな思いやりの心



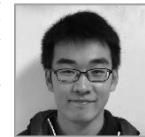
「オンマーク」

【高校生賞】

私のボランティア活動

東京都立練馬高等学校

2年 近石 圭悟



その他にもわたあめやアイスの販売もあり、道ゆく人にも気に入つてもらえ、暑さ対策の為、水打ち体験を実施して参加してくれた人達と涼しさも感じながら過ごすことが出来ました。

私の家は母が早くに亡くなり、父が仕事と家庭を両立していた為、兄弟達と父を支えていこうと約束しました。それが私の人助けをするようになつた原点でした。ですが、何事も自分から一步踏み出せない事が多かつたです。

そんな時にボランティア部に入り、ボランティアに対して真剣に考えている人達とボランティア活動をする上で、自分もこんな風に当たり前に人に手を差し伸べたいと強く思いました。このボランティア活動がやっと私を一步前に踏み出す力をくれたのです。

私は今は二年生になり、ボランティア部にもやりがいを感じてきた時に、光が丘で開催される夏フェスに行きました。このお祭りは地域の人達が、昔あつたお祭りを復活させようという願いのもと、昨年から復活したお祭りで私達も進んで企画を行い、パーゴルフや大きなしおぼん玉、子どもも大人も一緒に楽しんで

長させてくれる、私の趣味の一つとなっています。



このお祭りの間、私が心がけていた事は子ども連れが多かつたので笑顔を絶やさないように、一番は来る人が楽しいように、二番目はボランティア活動に積極的に参加する事を頑張りました。日々ボランティア活動を行っている中で、まだまだ自分の至らない点に気付かされるばかりですが、その気付きを次にいかして大人になつてもボランティア活動に関わっていきたいです。

結局のところ、ボランティア活動は、自分自身を成長させてくれる、私の趣味

東京都立穂ヶ丘高等学校

3年 櫻井 由菜

私は一年前から、パラスボーツの車いすラグビーのスタッフを行つている。

車いすラグビーは、パラスボーツの競技のなかで唯一衝突が許されている。試合中は衝突が多く、イヤガパンクすることや選手の転倒が多くみられる。そこで、私達スタッフはタイヤをパンクしていいタイヤと交換すること、パンク修理、転倒した選手を起こすなど試合中のサポートはもちろん、試合以外のサポートも行う。例えれば、準備運動の際に、上手く身体が動かせない方がいる。その方には手をそえて、身体が伸びるようにサポートを行う。他にも手が上手くつかえず、ペントボトルキヤップがあけられない。その時には、あけて渡す。試合以外でも私達にできることは多くある。スタッフの仕事は、選手達ができるために、環境を創る。

これらが、車いすラグビースタッフの活動内容である。私はこれらの経験をすることで、障がいへの理解が高まつたと考える。パラスボーツは多くの障がいを持つ方が、自分の個性を理解し行つている。スタッフをしてい

ると初めて知る障がいがある。それにより、一人一人サポートの仕方が変わる。一人一人が違う個性を持っているからこそ、多くの選手はそれぞれのパラスボーツで輝くことが出来るだと考える。

来年東京でパラリンピ

ックが行われる。そのためパラスボーツの認知度は高くなっているが、他国と比べると、高いとは言えない。だから、東京で行われるパラリンピックを通して、その時期だけでなく、通年を通してパラスボーツを盛上げていったい。そして、日本全体が障がいへの理解を高めていくてほしいと私は願う。



夢につながるボランティア

東京都立渕江高等学校

3年 内田 希来々



私は高校生活の三年間、軽音楽部として施設で演奏のボランティア活動をしてきました。その中でも一番印象に残っているのは、高校三年生の時に行つたあかしやの森という施設で行つたボランティア活動です。

私は普段軽音楽部で、優勝することを目指して練習してきました。その活動の中で一番樂しみにしていたのが、施設での演奏のボランティアを行う事でした。何故かと

いうと、一つの音楽を一緒に作る事ができるからです。例えば、知つてゐる曲があれば歌つてくれたり、手拍子をしてくれます。他のボランティアとは違い、演奏のボランティアは、その場にいる全ての人で一つの物を作る事ができるので私は大好きです。高校三年生の夏に私はあかしやの森で演奏をしました。その日はJ-POPを演奏しました。演奏中利用者の方は、一緒に歌つてくれたり、タオルをまわしてくれたりしました。演奏している私達も楽しめて、無事に終わることができました。終わった時、利用者さんが私の手を取り、「本当に楽しかった。ありがとう。」と言つてくださいました。その時私は、

すぐくうれしくて、卒業してもこの活動を続けたいと思いました。私は家に帰つてから調べて、音楽セラピーという言葉を知りました。私はその時、春から看護学校に通うことが決まつていたので、看護師になつて音楽セラピーについて学びたいと思いました。

ボランティア活動を通して、私は音楽で一つになれる樂しさだけでなく、将来の目標を見つける事ができました。そして、私の得意な事で、誰かの為に何かできる事を知り、自信がつきました。春から看護学校に通い、音楽セラピーを学び、今後もボランティア活動をしていきたいです。



令和元年度ふれあいボランティアパスポート参加校・団体リスト(令和2年2月末現在)

学校125校・11団体

1	北海道	千歳市立陽台小学校
2	青森県	弘前市岩木児童センター
3	岩手県	盛岡市立月が丘小学校
4		盛岡市立厨川中学校
5	宮城県	仙台市立七北田小学校
6	秋田県 鹿角市教育委員会	鹿角市立花輪小学校
7		鹿角市立花輪北小学校
8		鹿角市立平元小学校
9		鹿角市立十和田小学校
10		鹿角市立大湯小学校
11		鹿角市立尾去沢小学校
12		鹿角市立八幡平小学校
13		鹿角市立花輪第一中学校
14		鹿角市立花輪第二中学校
15		鹿角市立十和田中学校
16		鹿角市立尾去沢中学校
17		鹿角市立八幡平中学校
18	山形県 山形県青年の家	山形市立第一中学校
19		山形県最上郡鮭川村立鮭川小学校
20		山形県最上郡鮭川村立鮭川中学校
21		青少年地域ボランティアサークル「SAKEKKO」
22		山形県新庄市立新庄中学校
23		山形県舟形町立舟形小学校
24		山形県舟形町立舟形中学校
25		青少年地域ボランティアサークル「ふなっし」
26		山形県立新庄高等学校金山校
27		山形県立山辺高等学校
28	福島県	棚倉町立高野小学校
29		棚倉町立棚倉中学校
30	茨城県	水戸市立河和田小学校
31		つくば市立茎崎第一小学校
32	埼玉県	FA 春日部市立豊春中学校
33	栄町社会福祉協議会 千葉県 栄町教育委員会	栄町立安食小学校
34		栄町立布縫小学校
35		栄町立安食台小学校
36		栄町立童角寺台小学校
37		栄町立栄中学校
38	東京都 板橋区	中央区立佃中学校
39		品川区立小中一貫校荏原深塚学園
40		FA 品川区立品川学園
41		品川区立荏原第五中学校
42		目黒区立鷹番小学校
43		FA 世田谷区立瀬田中学校
44		世田谷区立用賀中学校
45		杉並区立西田小学校
46		FA 北区立浮間中学校
47		尾久六丁にこぐくーる
48		板橋区立板橋第六小学校
49		板橋区立舟渡小学校
50		板橋区ソニーアーダー会
51		ITABASHI高島平ボランティアワークショップ
52		練馬区立大泉第六小学校
53		葛飾区立中川中学校
54	神奈川県 横浜市立	小平市立小平第五小学校
55		FB 小平市立小平第八小学校
56		小平市立小平第十四小学校
57		小平市立學園東小学校
58		小平市立小平第五中学校
59		小平市立花小金井南中学校
60		東大和市立第三中学校
61		武蔵村山市立第一中学校
62		FA 武蔵村山市立小中一貫校村山学園
63		西東京市立田無第二中学校
64		東京都立文京高等学校
65		東京都立六本木高等学校
66		東京都立穂ヶ丘高等学校
67		東京都立練馬高等学校
68		東京都立瑞江高等学校
69		東京都立東久留米総合高等学校(定時制)
70	神奈川県	横浜市立岡村小学校
71		FA 神奈川県立新羽高等学校

参加児童・生徒数37,846人

72	新潟県	FA 柏崎市立比角小学校
73		FA ガールズスクール新潟県連盟
74		FA 新潟県子ども会連絡協議会
75	福井県	福井市立社北小学校(北っ子委員会)
76		福井市立社北中学校
77	岐阜県	社北ジュニアリーダー
78	静岡県	FA 関市立富野中学校
79		袋井市立袋井南中学校
80	大阪府	松原市立松原第五中学校
81	高知県	FB 高知県立高知東高等学校
82		小都市立味坂小学校
83		小都市立小郡小学校
84		小都市立御原小学校
85		小都市立立石小学校
86		小都市立三国小学校
87		小都市立大原小学校
88		小都市立東野小学校
89		小都市立のぞみが丘小学校
90		小都市立宝城中学校
91		小都市立大原中学校
92		小都市立立石中学校
93		小都市立小郡中学校
94		小都市立三国中学校
95		福岡県立三井高等学校(福祉教養コース)
96		踊る隠組
97		市民会議
98		大牟田市立みなど小学校
99		大牟田市立天領小学校
100		大牟田市立駛馬小学校
101		大牟田市立天の原小学校
102		大牟田市立玉川小学校
103		大牟田市立大牟田中央小学校
104		大牟田市立大正小学校
105		大牟田市立中友小学校
106		大牟田市立明治小学校
107		大牟田市立白川小学校
108		大牟田市立平原小学校
109		大牟田市立高取小学校
110		大牟田市立三池小学校
111		大牟田市立羽山台小学校
112		大牟田市立銀水小学校
113		大牟田市立上内小学校
114		大牟田市立吉野小学校
115		大牟田市立倉永小学校
116		大牟田市立手鏡小学校
117		大牟田市立宮原中学校
118		大牟田市立松原中学校
119		大牟田市立白光中学校
120		嬉野市立久間小学校
121		FB 嬉野市立吉田中学校
122		神埼市立神埼小学校
123		神埼市立西郷小学校
124		神埼市立脊振小学校
125		FA 神埼市立千代田西都小学校
126		神埼市立千代田中部小学校
127		神埼市立千代田東部小学校
128		神埼市立仁比山小学校
129		神埼市立神埼中学校
130		神埼市立脊振中学校
131		神埼市立千代田中学校
132	長崎県	対馬市立仁田小学校
133	大分県	大分県立佐伯豊南高等学校
134	鹿児島県	南九州市立中福良小学校
135		鹿児島県立川辺高等学校
136	沖縄県	沖縄県立中部農林高等学校

○:ふれあいボランティアパスポートフレンズ (FA / FB)

(FA): 教育委員会や学校が作成したオリジナルのふれあいボランティアパスポートを使用して参加いただいています。

(FB): ふれあいボランティアパスポート類を使用せず、申込時の参加人数を寄付回数で分けて、寄付のみに参加いただいています。

◇教育委員会やよりまゆ同体

管轄教育委員会の全小中学校を取りまとめて、参加いただいています。

令和元年度ふれあいボランティア活動感想文集
令和2年3月発行

認定N P O 法人さわやか青少年センター

〒167-0043 東京都杉並区上荻 1-24-17 丸華ビル 5 階

認定N P O 法人さわやか青少年センター事業所

TEL : 03-6279-9236 FAX : 03-6279-9256

URL : <http://www.ssc-npo.or.jp> / E-mail : info@ssc-npo.or.jp